

ぶどう通

第 36 号

平成 15 年 12 月 15 日

ようやく十二月らしい寒さも感じるようになったこのごろですが、いかがお過ごしですか？風邪などひかれていませんか？

さて、36号になった「ごとう通信」、装いは新たにありませんが、気持ちも新たに再開いたしています。もちろん皆さんご存知ですよ。これまで私たち夫婦の家内制手工業として訪問診療をしてきましたが、新たに、「ふれあい歯科ごとう」として再出発をいたしました。これからもよろしく願います。

開業日となった十二月一日、とにかく冷たい雨が降りました。天気などはまったく気にしていませんでしたが、ちよつと残念という感じでした。外来で初めての患者さんは、登世

子の古くからの恩師ご夫妻。本当にありがたいことです。実は奥様の治療を十一月まで勤務していた江戸川区の診療室でやっていました。ちよつと先月、奥歯

の金属冠が取れてしまい付け直したのですが、開業前日にまた取れてしまったということで来院されました。その恩師の先生には、「冠が取れる日まで計算するなんてさすがプロだと思ったよお。」と大笑いされてしまいました。いやいや面目ない。

この恩師は、あとで紹介するミニサロン活動でもご協力いただくことになったし、奥様には診療室のカーテンも作って頂きました。本当に頭が上がりません。

そんなこんなで新しい診療室がスタートいたしました。これからもよろしく願います。



皆様も年末年始、気温の変化も大

きいようですからくれぐれも体調にはお気をつけください。

診療室のこと

新しい診療室について少し紹介させていただきます。一番の特徴は何といっても車椅子の方の診療ができることでしょう。これは、設計段階から車椅子で活躍する設計士、高橋秀子さん（MAX）の協力をえて考えてきました。ただ、歯科の入口ではなく、別の入口から入らなくてはなりませんので必要な場合はあらかじめご連絡ください。

また、診療室全体を重厚な色使いにしています（あくまでも色使いであって値段が高いわけではありません）。来て頂く方の年齢層は高いかもしれませぬので（失礼！）、来院された方が落ち着く色を選択いたしました。